



研修紹介

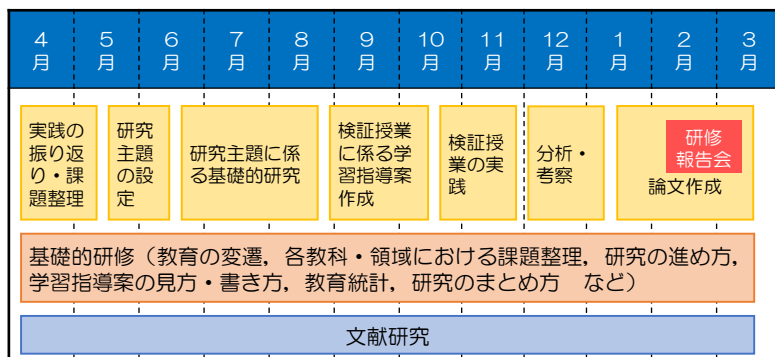
保育・授業改善に向けた実践研究

教育センターでは、園・学校において教育研究推進の中核となる教員、教科等の指導的役割を担う教員の育成を図ることを目的として、教員長期研修を行っており、本年度は5名の教員が研修に励んでいます。

具体的には、保育、教科等に関する専門的知識・技能の向上及び指導助言力の向上に向けた研修を行っています。中でも、専門的知識・技能の向上に向けては、右の図のような流れで文献研究や検証授業の実践、分析・考察などを行うことを通して、自身の実践とじっくり向き合い、授業改善の手立てについて丹念に研究を進めてきました。

本号では、教員長期研修生が1年間取り組んできた研究の概要を紹介します。

研究の大まかな流れ



緑井幼稚園 長原 聖子 教諭

研究主題 試行錯誤して遊ぶ幼児を支える教師の援助の在り方を探る
－4歳児の「転がし遊び」の観察と分析を通して－



●主題設定の理由

幼稚園教育要領では「幼児が試行錯誤して遊ぶこと」が求められている。そのための援助の工夫を、これまで行ってきたがその有用性について、検証することができていない。

そこで、試行錯誤して遊ぶ幼児を支えるための教師の援助の在り方を探る。

●研究を通して

遊びのいろいろな場面を関連付けて検証を行うことで、幼児の一つ一つの行動の背景にある思いや考えに気付くことができました。これからも、その子らしい発想を確かに見取り、生かす保育を続けていきたいです。

●「試行錯誤して遊ぶこと」について、これまで行ってきた援助の工夫の整理

| 項目 | 援助の工夫 |
|-------|--|
| 教師の援助 | 理解する ① 幼児が見たいとした考えや思いを受け止め、幼児が実現したいことを理解し見守る。 |
| | 共感する ② 幼児が実現したいことなどに対して、寄り添い、ともに知恵を絞る。 |
| | つなぐ ③ その子らしい考えや表現を認め、友達同士が互いに気付けるようにつなぐ。 |
| | 見通す ④ 幼児の意欲を支え、考えたことなどから次の手立てが見つけられるようにする。 |
| 環境構成 | 場づくり ① 幼児とともに遊びに必要なものを準備するなど、実現したいことを可能にする場をつくる。 |
| | 発想 ② 多様な発想が生まれる素材を準備する。 |
| | 多様性 ③ 幼児が遊びに必要なものを選び、使えるよう、多様な種類の素材を準備する。 |
| | 可視化 ④ 遊びの過程やイメージをもつことができるような写真や図を表示する。 |
| | 見通し ⑤ 遊びが継続できるよう、幼児とともに考え、次に遊び出せる工夫をする。 |



牛田小学校 児玉 佳子 教諭

研究主題 小学校外国語科「話すこと[やりとり]」における「自分の考えを伝え合うことができるようにする」ためのSmall Talkの実施方法に関する研究
－フォーカス・オン・フォームの手法を適用して－



●主題設定の理由

小学校外国語科では「自分の考えを伝え合うこと」が求められており、高学年における指導方法の一つとして、Small Talkの活動を促している。しかし、これまでの実践が少なく活動のイメージももてない。

そこで、Small Talkの効果的な実施方法を探る。

●研究を通して

表現方法だけではなく、子どもたちの「もっと知りたい、もっと伝えたい」という気持ちに丁寧に寄り添う支援の大切さを学びました。これからも、子どもたちの内面を大切に授業づくりに取り組んでいきます。

●授業改善の手立て

| | |
|-------------------|--|
| Small Talkを行う主な目的 | (1) 既習表現を繰り返し使用できるようにして、その定着を図る。 (2) 対話を続けるための基本的な表現（対話方略）の定着を図る。 |
| Small Talkの学習過程 | |
| 対話方略 | フォーカス・オン・フォームの手法 |
| 1 Smile | ① 教師と児童のやりとり ・教えた表現が会話の中に頻繁に出るようにする。 ・児童の表現のまちがいを教師が正しく言い直す。など |
| 2 あいさつ | ② 児童と児童のやりとり（1回目） ・言語使用がより流暢になり、語彙や文法の複雑さが増すようにする。 |
| 3 くり返め | ③ 指導 ・②の活動の直後に、モデルとなる表現を示して、自分の表現とモデルとなる表現を比べさせる。など |
| 4 一言感想 | ④ 児童と児童のやりとり（2回目） ・②と同じ活動を繰り返し行う。 |
| 5 さらに質問 | |



原南小学校 貴船 由美 教諭

研究主題

小学校算数科第5学年「異種の二つの量の割合」における比べ方を考察する力を育むための学習指導の工夫
—文章題の解決過程に沿ったワークシートの活用を通して—



●主題設定の理由

学力調査の結果から「異種の二つの量の割合における比べ方を考察する力」に課題がある。自身の実践を振り返ると、児童は、文章の意味を理解することや、適切な解決方法を選択することに難しさを感じている。そこで、文章題の解決過程を柱に学習指導の工夫を探る。

●研究を通して

認知心理学に基づいた数の理解の理論を学ぶことで、これまで以上に児童の学習状況を的確に把握し、一人一人のつまずきの要因に応じた支援を行うことができました。今後も確かな理論を基に、授業に臨みたいのです。

●授業改善の手立て

文章題の解決過程

① 変換過程
問題を把握できるよう、一文ごとの意味を押さえる。

② 統合過程
文間の関係を理解できるよう、図や表、言葉などで表現させる。

③ プラン化過程
図や表、言葉などを基に立式させる。

④ 実行過程
計算し、その結果が問題の条件を満たしているかを確認させる。



牛田中学校 藤迫 竜太 教諭

研究主題

中学校理科における「課題を設定する力」を育成するための指導方法の工夫
—「課題設定における思考過程に沿った指導」を通して—



●主題設定の理由

理科では「探究の過程を通して資質・能力を育成すること」が求められており、その過程で、生徒に課題を設定させることは、科学的に探究する能力の基礎を育成する上で重要である。そこで、「課題を設定する力」を育成するための指導方法の工夫を探る。

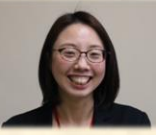
●研究を通して

これからの社会を生きる子どもたちには、授業以外の場においても転移可能な力を付けさせることが必要だと学びました。今後は、生徒に付けるべき力が何のために必要なかを明確にし、授業改善を続けていきます。

●授業改善の手立て

課題設定における思考過程

- ① 問題状況の理解
提示された二つの自然現象を絵や文で表現する。
- ② 目標・方向性の確認
二つの自然現象の違いを全て挙げる。
- ③ 変数の同定
②の中から、問題状況と関係のあるものを選択する。
- ④ 因果関係の認識
③を、自然現象の「原因」と「結果」に分ける。
- ⑤ 課題の表現
「原因」と「結果」の関係を表した課題の文を書く。



二葉中学校 高瀬 智美 教諭

研究主題

中学校国語科文学的文章を読むことにおける「考えを形成する力」を育成するための学習指導法の工夫
—「理解方略」の使用を促す学習過程を通して—



●主題設定の理由

学力調査の結果から「文章から読み取ったことを基に自分の考えを書くこと」に課題があり、新学習指導要領では、全ての領域に「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられた。そこで、読むことに焦点を当て「考えを形成する力」を育成する指導方法の工夫を探る。

●研究を通して

生徒が表現した言葉だけでなく、そこに至るまでの過程を見取ることが大切だと感じました。今日の授業でどのような力が付いたのかを教師と生徒が共有できる国語科の授業の在り方を、今後も追究していきたいです。

●授業改善の手立て

「理解方略」の使用を促す学習過程

- ① 考えるための手がかりを得る
「作者の工夫」を見付ける。
- ② 考えをもつ
「キーになる発問」について考えを書く。
- ③ 考えを広げる・深める
「理解方略」(質問、関連付け、推測など)を使ってグループで交流する。
- ④ 考えを形成する
交流したことを踏まえて、「キーになる発問」について改めて考えを書く。

教員長期研修生は、常に自ら問いを立て解決するために文献研究を行い、確かな理論を基に研究授業を行うとともに、その効果の検証に向け、子ども一人一人を丁寧に見取りました。その結果、設定した主題について、改善の手がかりを得ることができました。

このたび、1年間取り組んできた研修の成果を発表する報告会を開催します。多くの皆様の出席をお待ちしております。なお、参加申込の詳しい案内については、1月24日付で、各園・学校に通知しておりますので、ご確認ください。

【研修報告会の実施】日時:令和2年2月27日(木) 14:00~16:45 場所:広島市教育センター